

男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査

～「令和6年度男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査」結果概要～

滋賀県では、平成13年（2001年）に制定した「男女共同参画推進条例」に基づき、令和7年（2025年）度までを期間とする「パートナーしがプラン2025（滋賀県男女共同参画計画・滋賀県女性活躍推進計画）」を策定し、県民や事業者の皆様と連携を図りながら男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めているところです。

このたび、施策の現状を調査するとともに、今後の施策方針の参考とさせていただくため、県民の皆様にも男女共同参画についてのアンケート調査への協力をお願いしました。

調査対象 満18歳以上の個人3,000人

調査期間 令和6年6月25日～7月26日

有効回収数 1,271人（有効回収率42.4%）

調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用

滋賀県女性活躍推進課 TEL 077-528-3770 FAX 077-528-4807

※各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重した規正標本数を基数として集計を行っています。

※Nは各設問の不明・無回答を除く集計対象数（付問は設問該当者数）で、設問により異なります。

※百分比（%）は、小数点第2位を四捨五入し、第1位までを表示。その結果、合計は100.0%に一致しない場合があります。

※2つの選択肢を集約した場合（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」を合計した『同感する』など）は、当該選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、選択肢ごとの割合の合計と一致しない場合があります。

1 男女の地位に関する意識

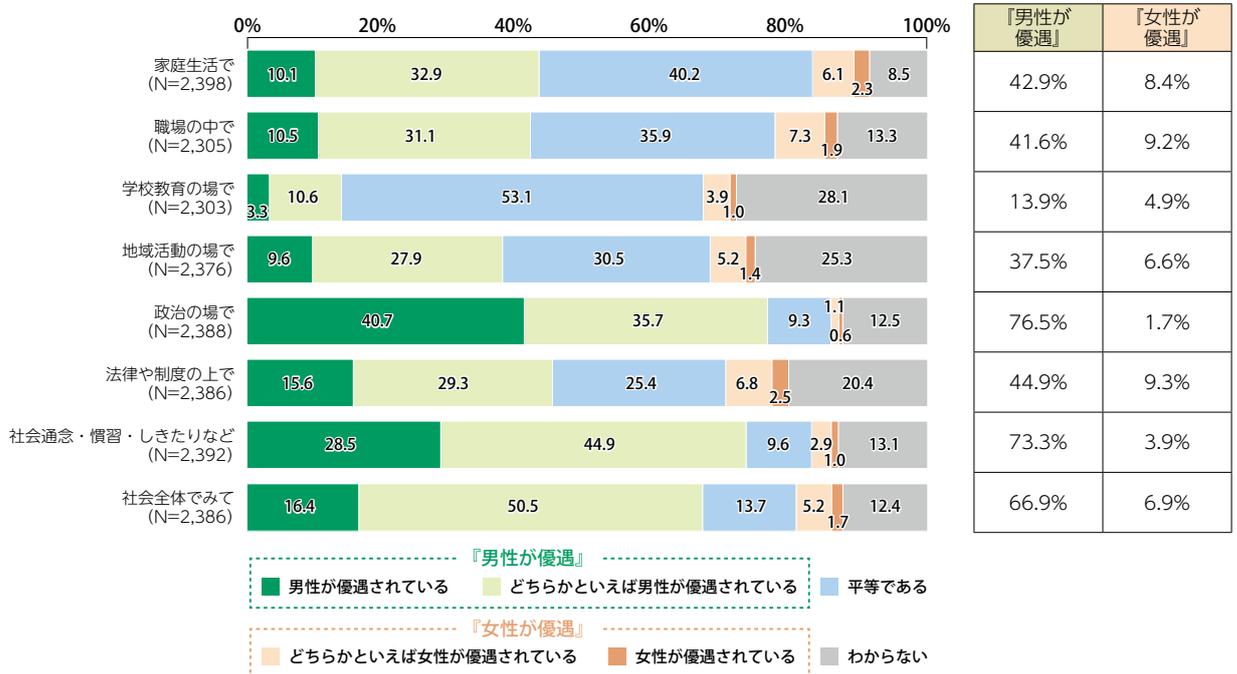
1 各分野での男女の地位の平等感

社会全体で見ると「平等である」は13.7%、「男性が優遇」されているが66.9%

各分野での男女の地位の平等感は、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇』は、「社会全体でみて」では66.9%である。

分野別にみると、『男性が優遇』が大きな割合を占めるのは「政治の場で」（76.5%）、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」（73.3%）である。

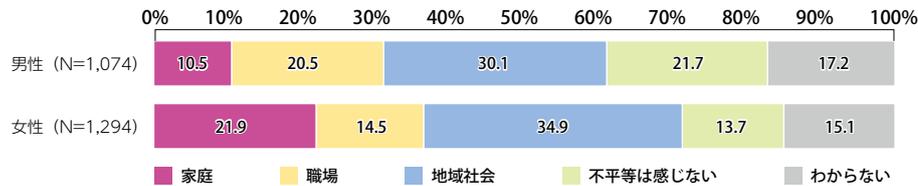
「平等である」は、「学校教育の場で」が最も多く53.1%となっている。



2 日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところ

最も不平等を感じる場所は、男性、女性ともに「地域社会」

日常生活の中で男女の不平等を一番感じる場所は、男性、女性ともに「地域社会」が最も多くなっている（男性30.1%、女性34.9%）。「家庭」については特に男女差が大きく、女性の方が11.4ポイント高くなっている。

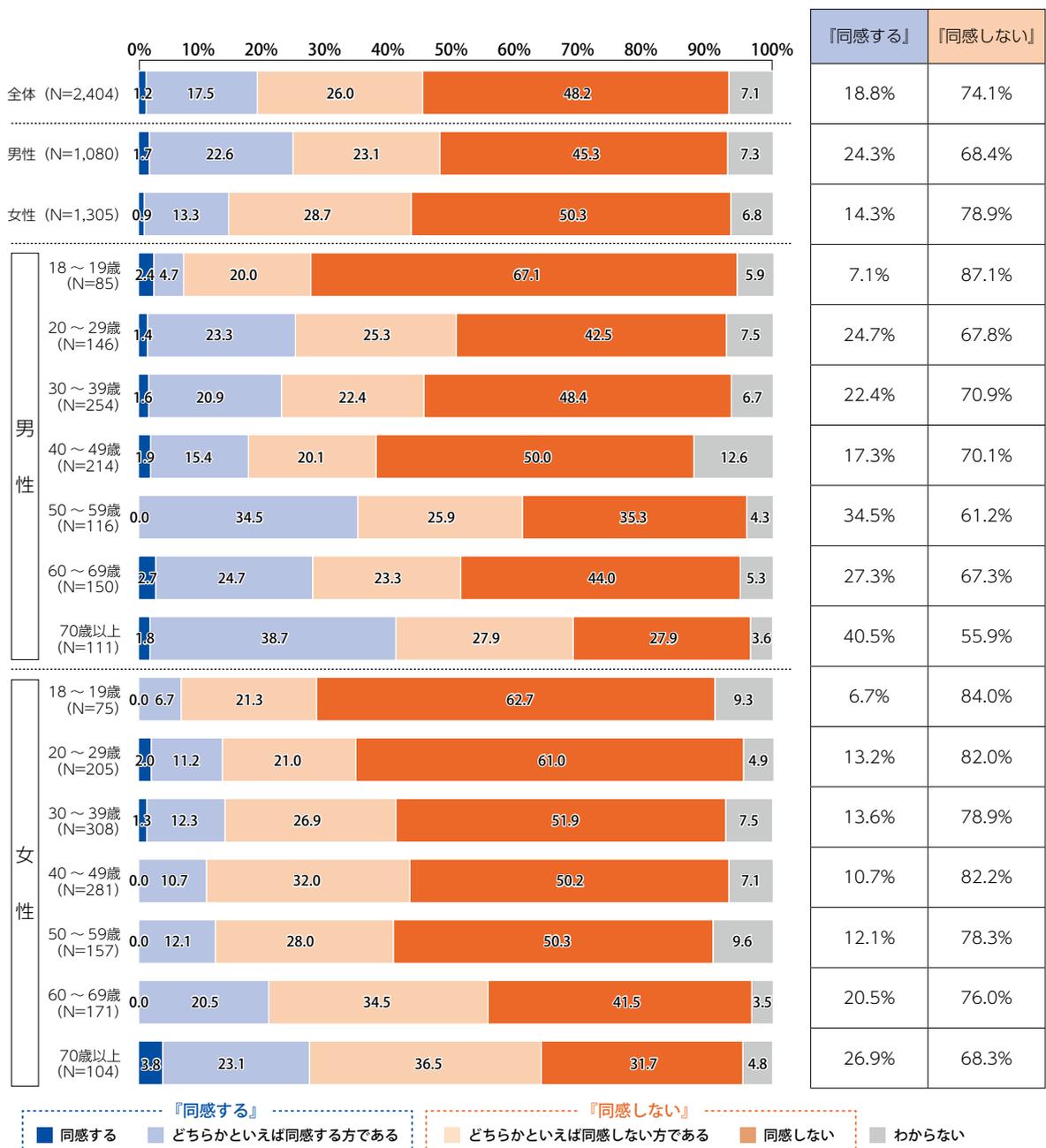


3 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方

『同感しない』は74.1%

「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方について、「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」をあわせた『同感する』は18.8%、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない方である」をあわせた『同感しない』は74.1%となっている。

性別では、『同感する』は男性では24.3%となっており、女性（14.3%）を10ポイント上回っている。

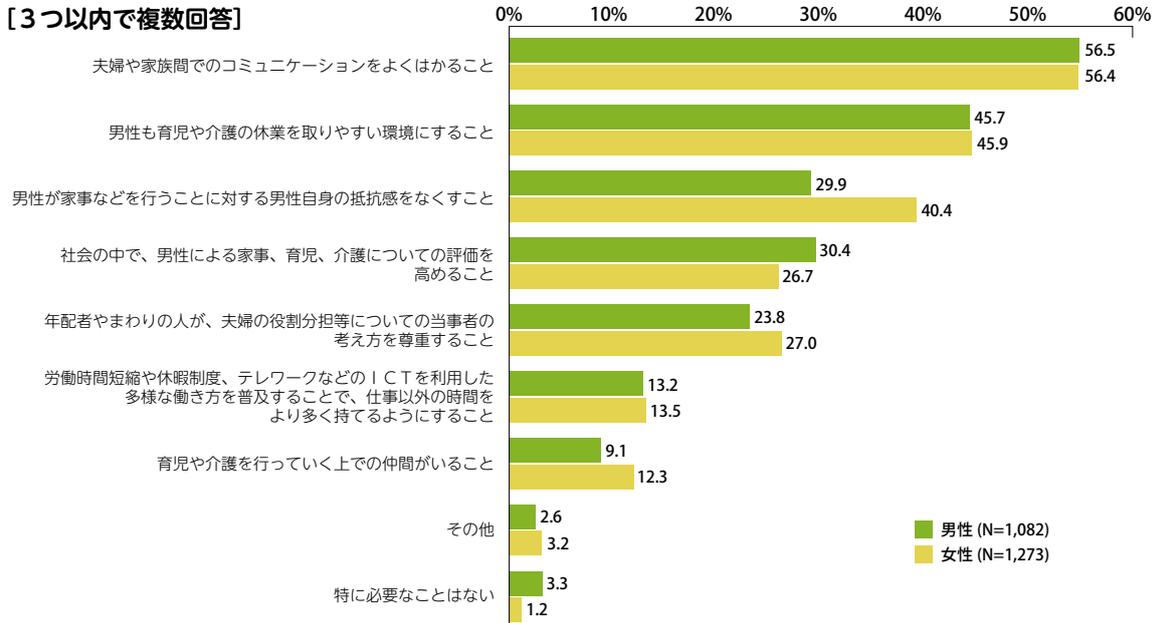


2 男性の参画について

1 男性が家事、育児、介護等に積極的に参加するために必要なこと

「夫婦や家族間でのコミュニケーション」や「育児や介護の休業を取得しやすい環境」が多い

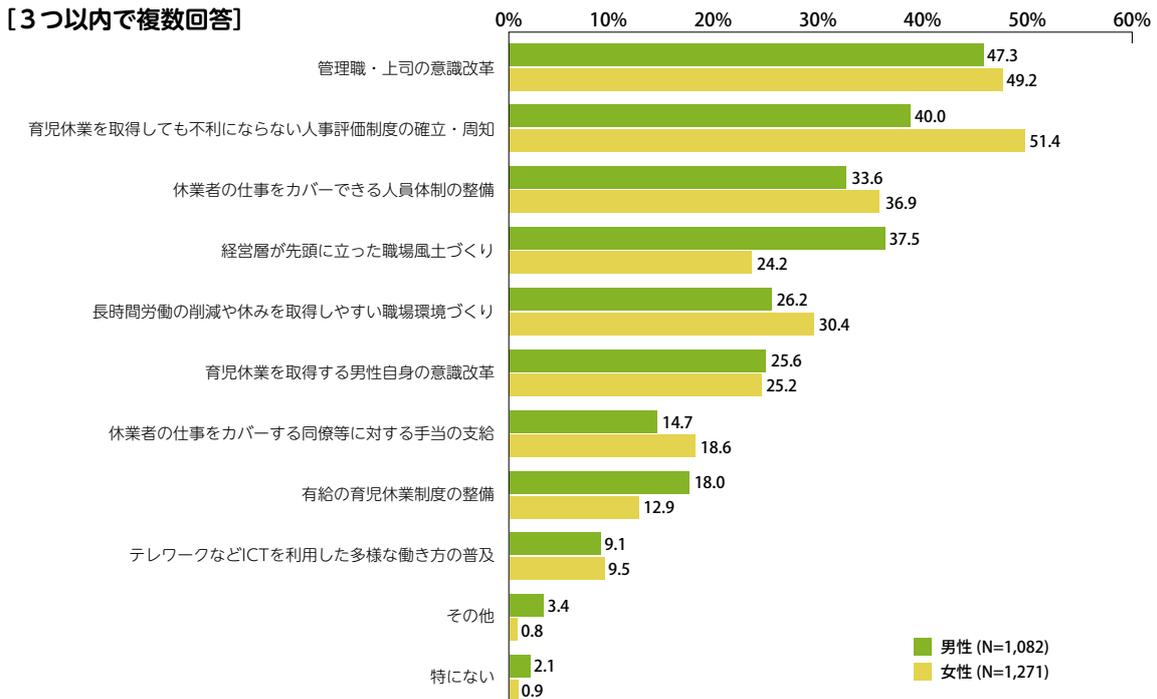
男性が家事、育児、介護等に積極的に参加するために必要なことは、男性、女性ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、次いで「男性も育児や介護の休業を取りやすい環境にすること」が多い。



2 男性の育児休業の取得を進めるために職場に必要な取組

「管理職・上司の意識改革」や「育児休業を取得しても不利にならない人事評価制度の確立・周知」が多い

男性の育児休業の取得を進めるために職場に必要な取組は、男性、女性ともに「管理職・上司の意識改革」と「育児休業を取得しても不利にならない人事評価制度の確立・周知」が上位2つを占めている。



3 家庭生活や地域活動について

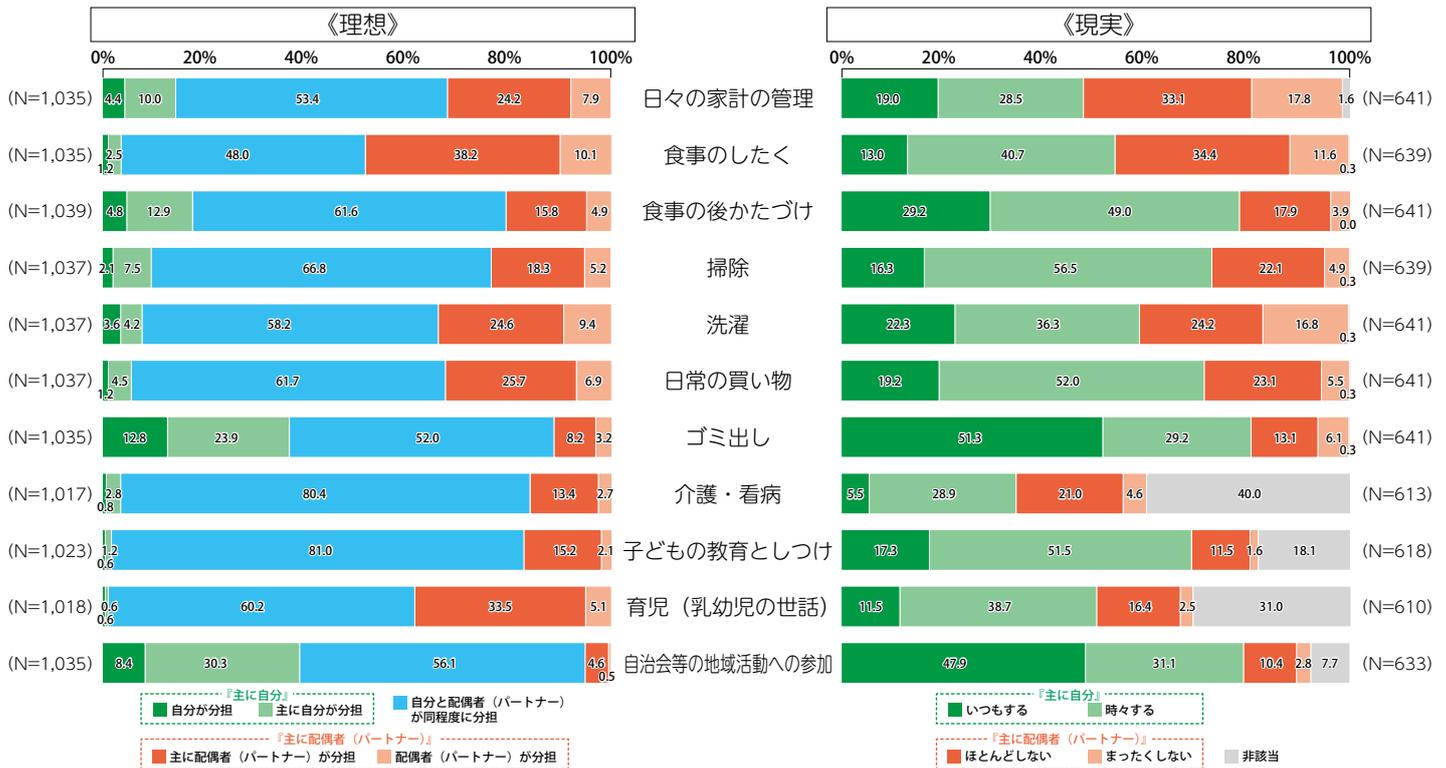
1 家庭生活における配偶者（パートナー）との役割分担の理想と現実

現実には、男性は【ゴミ出し】と【自治会等の地域活動への参加】のみが女性を上回る

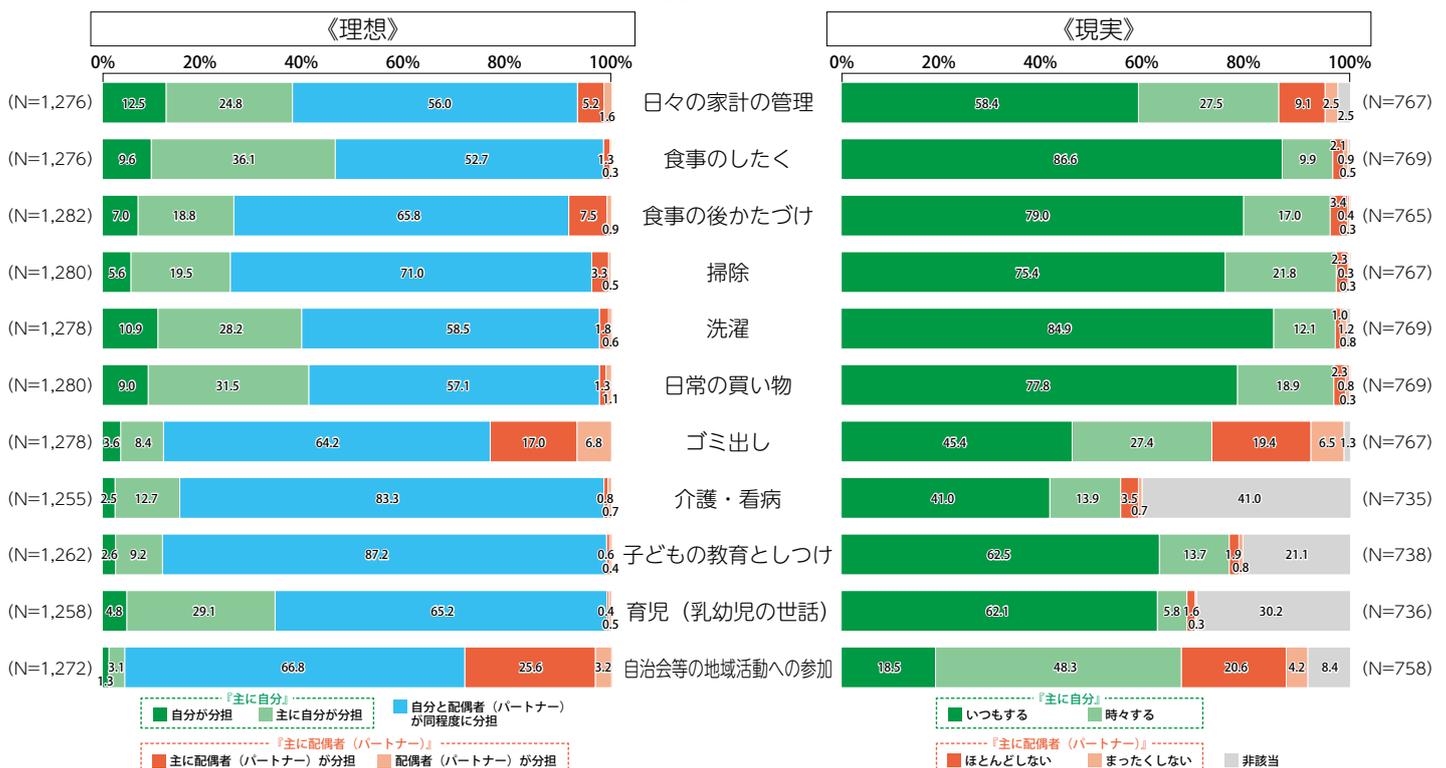
家庭生活における配偶者（パートナー）との役割分担の理想は、どの分野においても、男性、女性ともに「自分と配偶者（パートナー）が同程度に分担」の割合が高い。

現実には、男性の役割分担の割合が高い（女性の割合を上回った）項目は、【ゴミ出し】と【自治会等の地域活動への参加】のみである。女性の役割分担の割合が特に高い項目は、【掃除】、【洗濯】、【日常の買い物】、【食事のしたく】、【食事の後かたづけ】であり、『主に自分』の回答が9割を超えている。

【男性の役割分担《理想》と《現実》】



【女性の役割分担《理想》と《現実》】

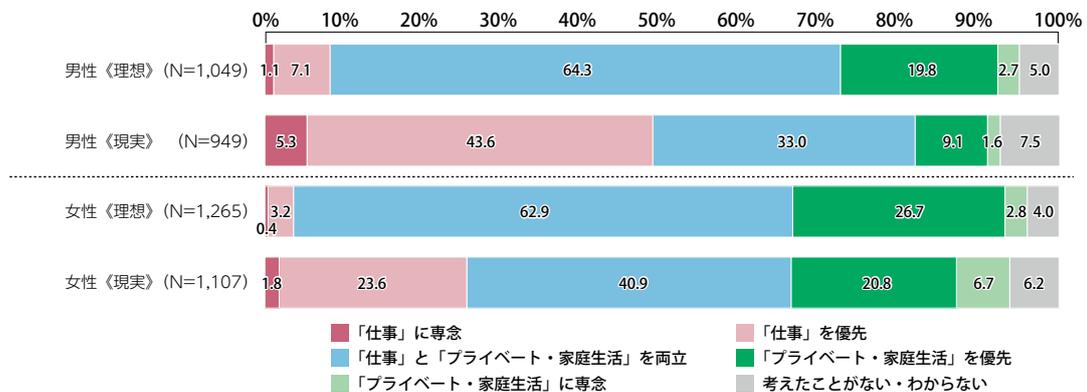


4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

1 生活の中での「仕事」と「プライベート・家庭生活」のバランス

理想とするバランスを取ることが難しい現実

生活の中での「仕事」と「プライベート・家庭生活」のバランスについて、理想は、男性、女性ともに「仕事」と「プライベート・家庭生活」を両立が最も多いが、理想どおりに生活することは難しく、現実には、男性では「仕事を優先」（43.6%）が最も多く、女性は「仕事」と「プライベート・家庭生活」を両立（40.9%）しているものの、理想とは22ポイントの差がある。

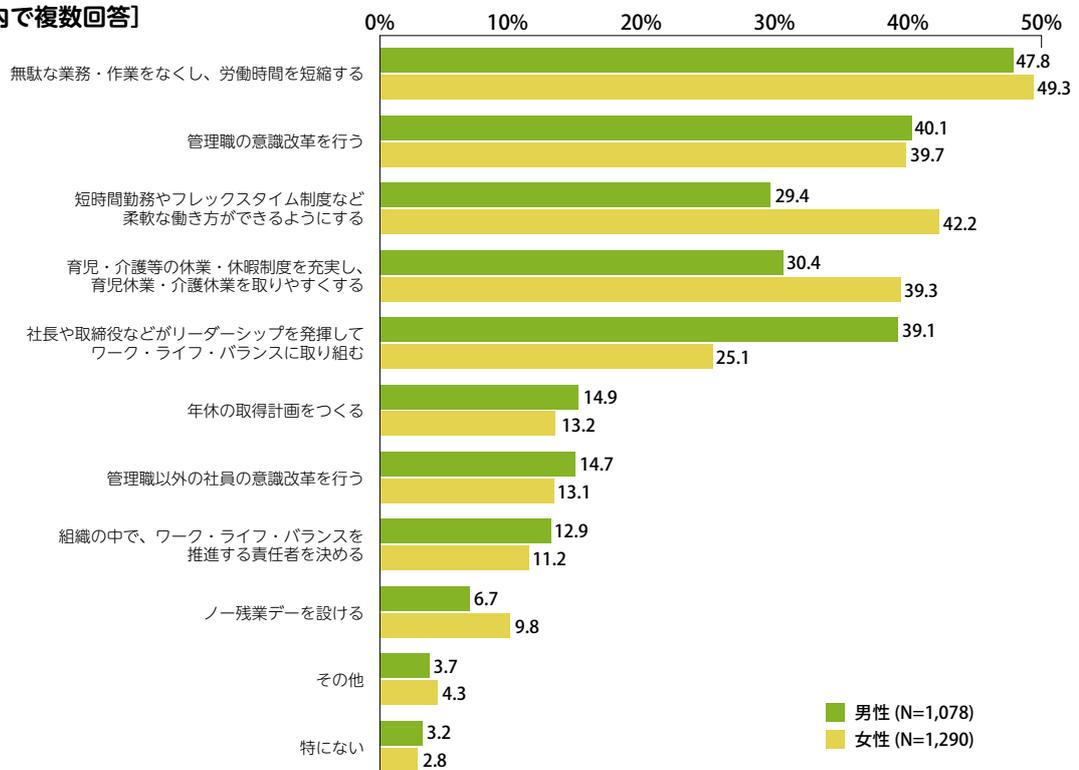


2 「仕事と生活の調和が実現された社会」に近づくために職場において必要な取組

「無駄な業務・作業をなくし、労働時間を短縮する」が最も多い

「仕事と生活の調和が実現された社会」に近づくために職場において必要な取組は、男性、女性ともに「無駄な業務・作業をなくし、労働時間を短縮する」が最も多く、次いで、男性は「管理職の意識改革を行う」が、女性は「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」が続く。

[3つ以内で複数回答]



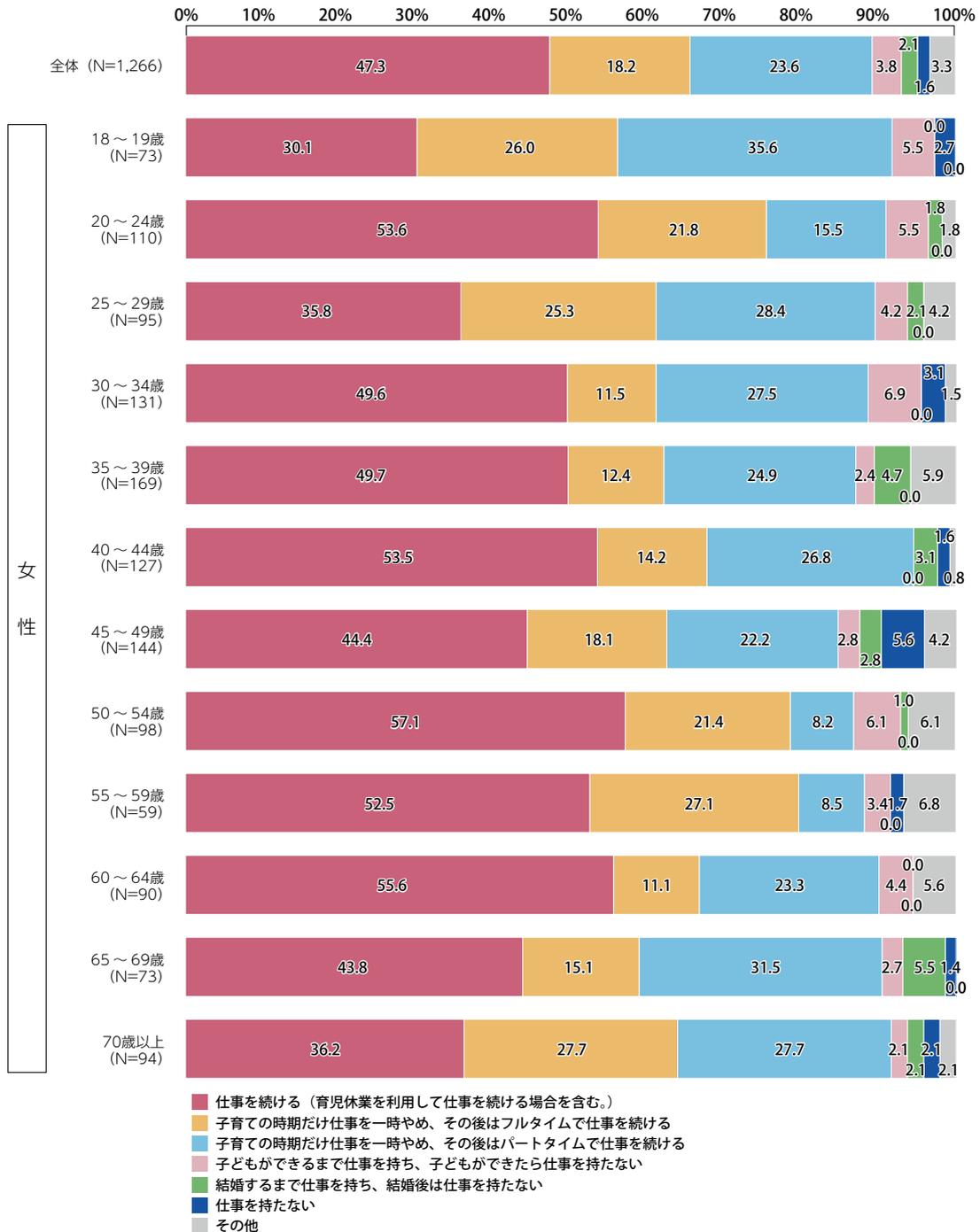
5 働き方について

1 女性自身が考える理想の働き方

「仕事を続ける」が最も多い

女性自身が考える理想の働き方は、「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む）」が最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」と続いている。

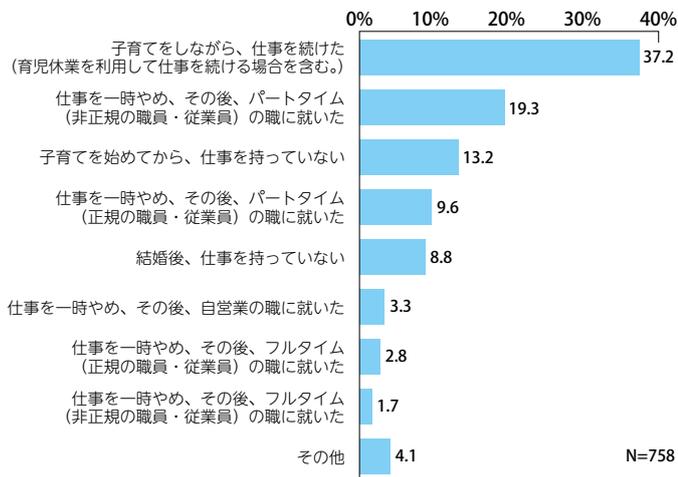
18～19歳は「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が、20歳以上は「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む）」が最も多くなっている。



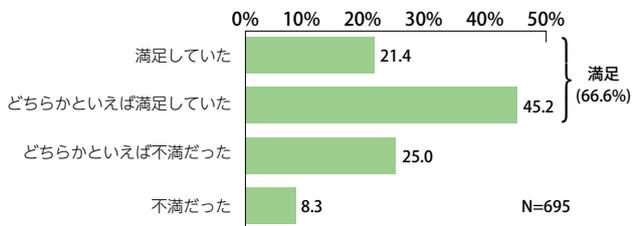
2 子育てを始めた女性の働き方の現実と満足度

現実には「子育てをしながら、仕事を続けた」が最も多く、当時の状況に『満足』していたが6割以上

女性に聞いた、第一子の子育てを始めたことによる仕事の状況は、「子育てをしながら、仕事を続けた（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む）」が最も多く、次いで「仕事を一時やめ、その後、パートタイム（非正規の職員・従業員）の職に就いた」、「子育てを始めてから、仕事を持っていない」



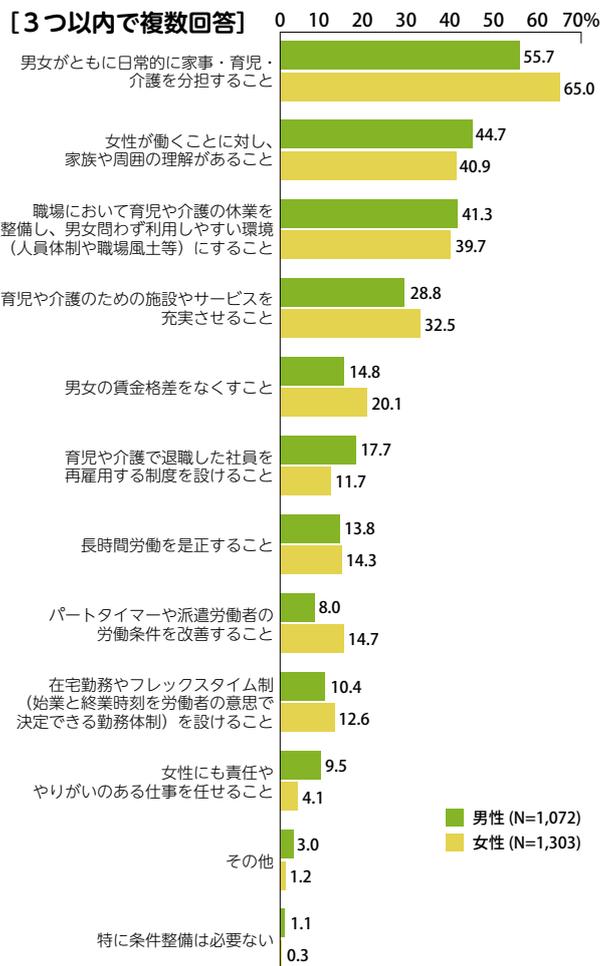
また、第一子の子育てを始めた当時、子育てと仕事の状況にどの程度、満足していたかは、「満足していた」と「どちらかといえば満足していた」をあわせた『満足』が66.6%、「どちらかといえば不満だった」と「不満だった」をあわせた『不満』が33.3%となっている。



3 女性が仕事を続けていくために必要なこと

「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が最も多い

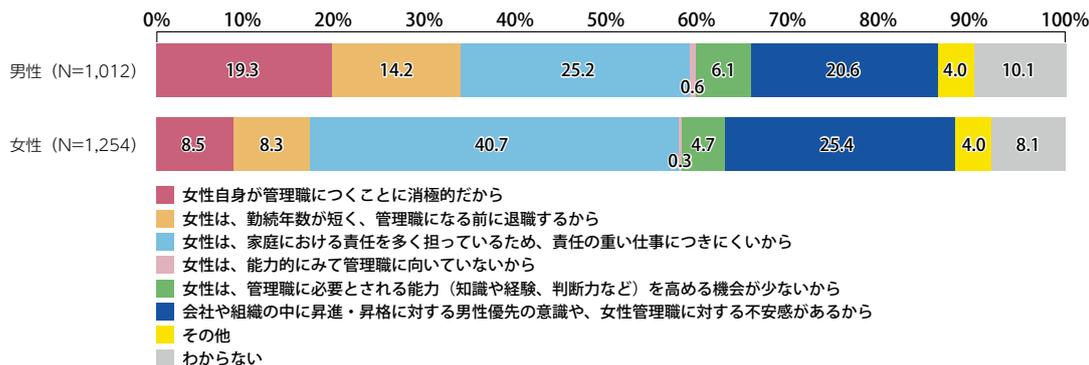
女性が仕事を続けていくために必要なことについて、男性、女性ともに「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が最も多く、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」が多くになっている。



4 管理職につく女性が少ない最も大きな理由

「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多い

管理職につく女性が少ない最も大きな理由は、男性、女性ともに「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多い (男性25.2%、女性40.7%) が、女性の方が15.5ポイント高くなっており、男女の差が大きい。

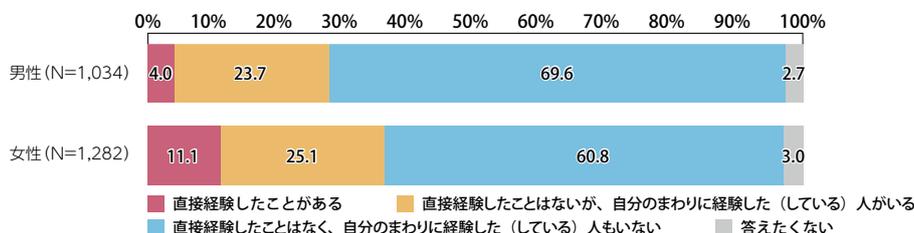


6 男女間の暴力について

1 夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力の経験

女性では「直接経験したことがある」が9人に1人

夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力について、「直接経験したことがある」は、男性では4.0%、女性では11.1%、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がある」は、男性では23.7%、女性では25.1%となっており、いずれも女性の方が割合が高い。

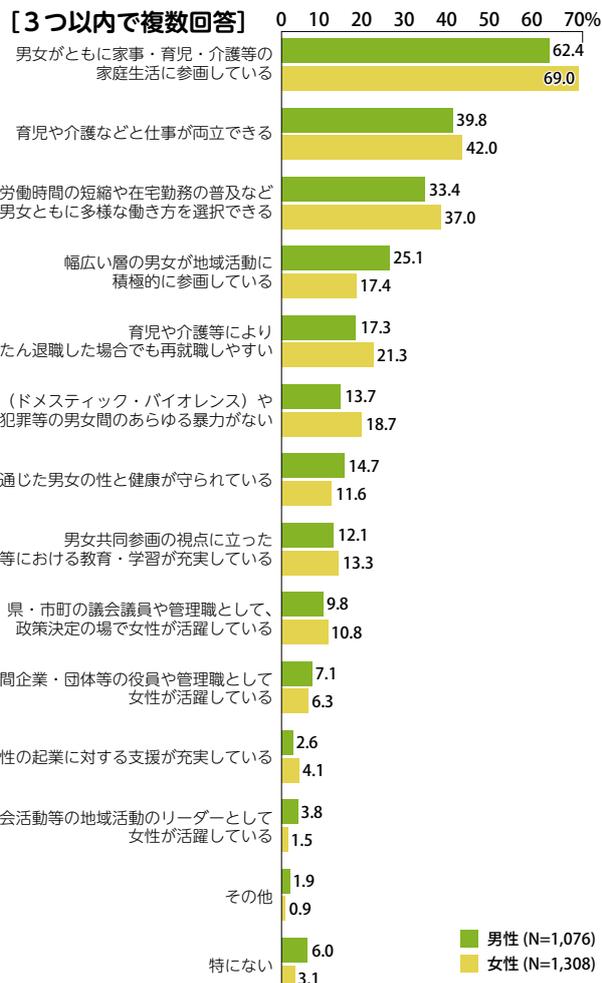


7 男女共同参画社会について

1 理想の男女共同参画社会の姿

「男女がともに家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」が最も多い

理想の男女共同参画社会の姿は、男性、女性ともに「男女がともに家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」が最も多く、次いで「育児や介護などと仕事が両立できる」が多くなっている。



2 県立男女共同参画センター（G-NETしが）に期待する取組

「男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」や「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な講座の企画・開催」が多い

県立男女共同参画センターに期待する取組は、男性、女性ともに、「男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」と「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な講座の企画・開催」が上位2つを占めている。

